

第3学年4組 道徳科学習指導案

令和7年10月30日（木） 第5校時

- 1 主題名 家族の絆 内容項目 [家族愛、家庭生活の充実]
- 2 ねらい 家族に敬愛の念を深める主人公の心の変容について話し合うことを通して、家族との関わりや、家族の在り方について考えを深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。
- 教材名 「一冊のノート」（「明日への扉 3年」学研）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校高学年で「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。」について学んできている。人間が成長していくための基本的な環境は、家庭であり、家族であるが、その家族を構成する成員相互の温かい人間関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることにより、安心、安全、安定したい場所が確保され、社会生活を送る上での基盤となる。祖父母や父母がいること、そして、自分はそのかけがえのない子供として深い愛情をもって育てられていることに気付かせることが大切である。そのことを通して、自分の成長を願い無私の愛情をもって育ててくれた父母や祖父母に対して敬愛の気持ちを深めることが必要である。また、家族の中で自分の役割や責任を果たすことを通して、家族の一員であることの自覚が高まっていくものだと考える。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

※ 生徒の実態は、当日配付いたします。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、物忘れが激しくなってきた祖母に対して、困り果て、嫌うようになった「僕」の心の変化や成長を通して、ねらいに迫るものである。祖母へのいらだちがつのり、ついに爆発させてしまった「僕」は、引き出しの中にあった祖母の一冊のノートを読み、祖母の不安や家族への純粋な感謝の思いを知り、祖母に対するこれまでの在り方、接し方を見直すようになる。ノートを読んだ後、「僕」にどのような心境の変化があったのかを考え、議論することで、「老い」への受け止めと自分が家族の中で果たす役割、家族の絆の深さについて迫りたい。

4 学校研修主題との関わり

研修課題『未来に生きる学力の育成』

本校では、学校経営で設定された最重点「学ぶ力を伸ばす」のもと、学習姿勢や方法、意欲などの「学力」の育成を研究主題として取り組んできた。本校の実態として、県学調における生徒質問紙の結果から、自分の考えを持ち、次の学びにつなげようとする意識が十分でないことが分かっている。そこで、教科ごとに思考力を育てる活動（場面）を取り入れた授業実践に取り組んでいる。道徳科においても、生徒に自分の考えを持たせた上で、ICTを活用しながら多様な意見に触れ、自分の考えを深める場면을意図的に設定することで思考力を育んでいきたい。

5 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点 ◎学校研修課題との関わり
導入	1 アンケート調査「親について文句を言ってしまったことがあるか」の結果を見る。 2 学習テーマを知る 課題：大切な家族にどう接するべきだろう	・「勉強しなさい」と言われて、口ごたえしてしまった。 ・言われなくてもわかっていることを言われて腹が立ち、反抗してしまった。	・家族だからこそ言い方がきつくなってしまう、そこには甘えがあることを理解させる。しかしながら、家族がかけがえのない存在であるからこそ、どのように接していくべきなのか。ねらいとする道徳的価値への動機付けを図る。
展開	3 教材を読んで話し合う (1) 「僕」にとって、「おばあちゃん」はどんな存在だろう。	・小さい頃から面倒をみてもらう ・何かと頼る ・物忘れがひどい、迷惑 ・みずぼらしい、恥ずかしい	・世話になっている祖母の“老い”について頭では理解していても、感情的になってしまう「僕」の未熟さや甘えを理解させる。

	(2)日記には「おばあちゃん」の孫に対するどんな想いが書かれていただろう。 (3)日記を読んだ「僕」にどんな心境の変化があったのだろう。 4 本時の課題について考える ・グループになって案を出し合い、タブレットを利用し、出た意見を書き込む。	・記憶がどうにもならない<u>もどかしさ</u>、この先どうなるか<u>不安</u>。 ・家族と過ごせることへの<u>感謝</u> ・孫たちの面倒を見なければ ・おばあさんの不安や苦しみを知って可哀想に思った。 ・さんざん文句を言ってしまったことを後悔した。 ・老いと闘いながらも、自分たちのことを思ってくれるおばあさんに寄り添うことにした。 ・甘えを捨てる。 ・両親や祖父母の気持ちになって考える。 ・自分のことは自分でやる。 ・心配をかけさせない。	・迷惑に思われても、老いていく不安を抱えながらも、家族のために頑張ろうとする祖母の無償の愛と、それでも衰えていく祖母のはかなさを理解させる。 ☆祖母に対する受け止めが変化した根拠について、主人公の立場、家族の思いなどから多面的・多角的に考え、深めている。 ◎生徒から出た意見を全体で考えるべき発問に発展させ、意見交換を通して多角的・多面的な思考を促す。
終末	5 本時を振り返り、今後どのように生活していくかを書く。		☆自分に深い愛情を注いでくれる家族の存在と絆の深さを受け止め、自分の役割を自覚し、より充実した家庭生活を築こうとする思いを深めている。

6 他の教育活動等との関連

事前指導	・アンケートを実施する
道徳科	・教材名「一冊のノート」 家族との関わりや、家族の在り方について考えを深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする心情を育てる。
事後指導	・帰りの会や学級通信を利用して、生徒の感想を紹介し、他者の価値観を理解した上で自分の道徳的価値を深める。
家庭との連携	・本時の授業内容や生徒の感想を学級通信で紹介し、家庭でも話題にしてもらう。

7 評価の視点

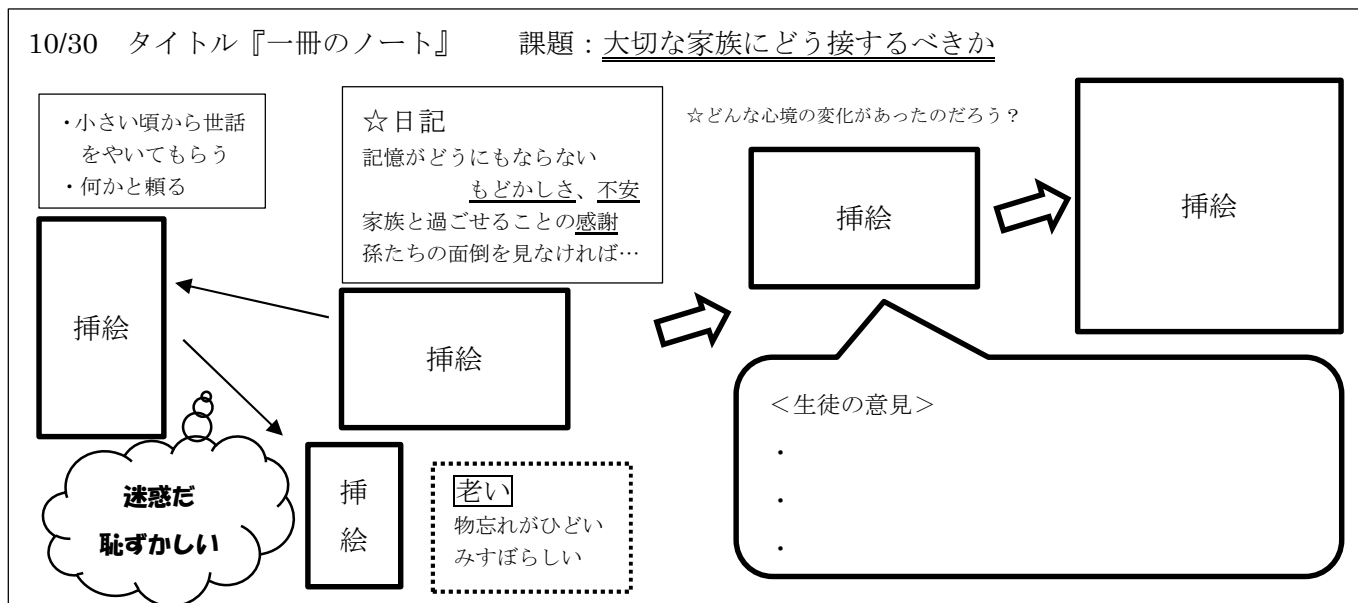
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・祖母に対する受け止めが変化した根拠について、主人公の立場、家族の思いなどから多面的・多角的に考え、深めていたか。

【道徳的価値について理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分に深い愛情を注いでくれる家族の存在と絆の深さを受け止め、自分の役割を自覚し、より充実した家庭生活について自分との関わりで考えている。

8 板書計画



*アンケートの結果や生徒の意見（情報共有アプリ等）をTVモニターに表示しておく。